

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進 ～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

3年3組 豊田先生(算数)の研究授業から ～一人一人が主人公の授業～

10月1日(木)、5時間目に3年3組にて研究授業が行われました。

3年3組では日々の学習をととして、子ども達が主体的に学ぶためのその術(すべ)が伝えられています。参観した先生はみな感じたことだと思いますが、その術を使いながら、子ども自らの力で学習を進める生き生きとした姿を見ることができました。

校内の若年教員研修で、子ども達に算数科において身に付けさせる術として、「数学的な態度」について話をしました。「数学的な態度」とは一般的につぎの4つを指します。

- 1 自ら進んで自己の問題や目的・内容を明確に把握しようとする
 - ① 事象の中から数学的な問題を見つけようとする。
 - ② 疑問を持とうとする
 - ③ 問題意識をもとうとする
- 2 筋道の立った行動をしようとする
 - ① 目的にあった行動をしようとする。
 - ② 見通しを立てようとする
 - ③ 使える資料や既習事項、仮定に基づいて考えようとする
- 3 内容を明瞭簡潔に表現しようとする
 - ① 問題や結果を簡潔明瞭に記録したり、伝えたりしようとする
 - ② 分類整理して表そうとする
- 4 よりよいものを求めようとする
 - ① 思考を対象的(具体的)思考から、操作的(抽象的)思考に高めようとする
 - ② 自他の思考とその結果を評価し、洗練しようとする

以上のような態度は、地道に育てていかなければなりません。3年3組では、このような学ぶ術を身につけ、使うことによって「一人一人が主人公」になる学習を目指し、「学ぶ喜び」「学び楽しさ」を味わわせることに日々挑戦しています。



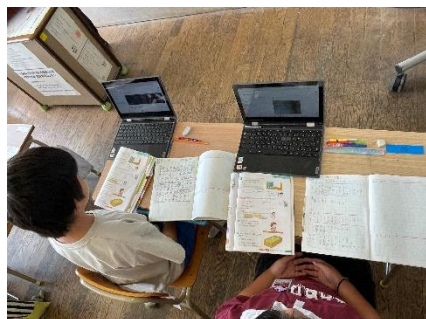
教室がすっきりと
整えられています



話の聴き方は子ども達に
身に付けさせたい基本中の基本です



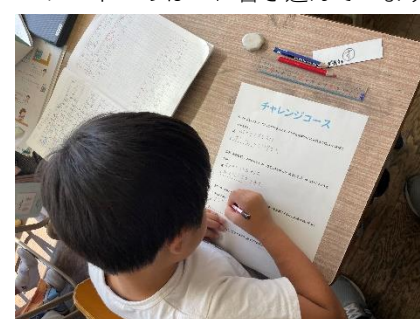
最後の振り返りまで
ノートいっぱい書き込んでいます



I C Tを活用した考えの共有



自分の学びに生かすという
目的をもって交流が行われています



個々にあったプリントの
準備と自己選択